

製品名: IFN- β ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12402**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	IFNB1 IFB IFNB
別名	Interferon beta (IFN-beta; Fibroblast interferon)
遺伝子 ID	3456.0
SwissProt ID	P01574
免疫原	アミノ酸配列範囲: 91-140 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

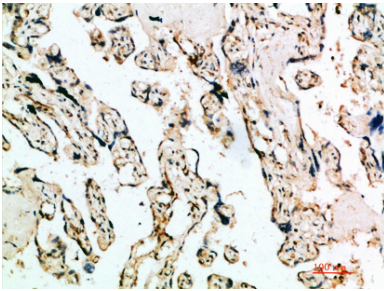
この遺伝子は、病原体に対する自然免疫応答の一環として放出されるシグナル伝達タンパク質のインターフェロンファミリーに属するサイトカインをコードします。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ウイルス感染に対する防御に重要な I 型インター

フェロンに属します。さらに、I型インターフェロンは細胞分化と抗腫瘍防御に関与しています。病原体への反応として分泌されたI型インターフェロンは、相同受容体複合体に結合し、炎症性サイトカインやケモカインをコードする遺伝子などの転写を誘導します。I型インターフェロン分泌の過剰活性化は、自己免疫疾患に関連しています。この遺伝子を欠損したマウスは、B細胞成熟の欠陥やウイルス感染に対する感受性の増加など、いくつかの表現型を示します。 [RefSeq 提供、2015年9月]機能: 抗ウイルス、抗菌、抗がん作用を有する。 ,オンライン情報: Avonex の臨床情報,オンライン情報: Betaseron の臨床情報,医薬品: Avonex (Biogen) 、 Betaseron (Berlex) 、 Rebif (Serono) の名称で販売されている。多発性硬化症 (MS) の治療に使用される。Betaseron は、IFNB1 の2つの残基が置換された、わずかに改変された形態である。 ,類似性: α/β インターフェロンファミリーに属する。 ,サブユニット: モノマー。 ,

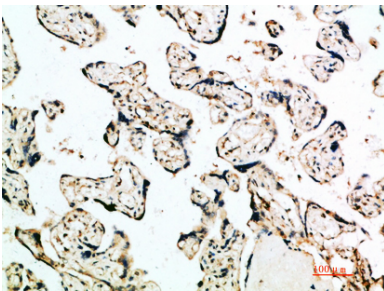
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;Toll_Like;RIG-I 様受容体;細胞質 DNA 感知経路;Jak_STAT;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性;

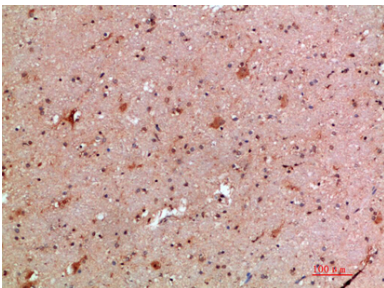
画像データ



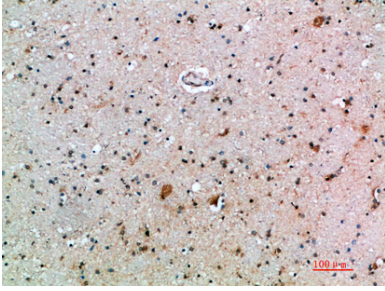
パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された



パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は1:200に希釈された



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された